

平成 29 年 8 月 15 日

公益財団法人庭野平和財団
理事長 庭野 浩士 様

コード番号：16-A-049
ホープフル・タッチ 高田みほ

平成 28 年度報告書

「トルコ、シャンルウルファ県におけるシリア難民の子ども達へのノン・フォーマル 教室の開校と運営」

1. 団体および実施事業の紹介（400 文字程度で簡潔にご記入ください）

2016 年 3 月、シリア難民支援の現場で共に働いていたシリア人 2 名と日本人 1 名により、自分たちの職場では実現できない人道支援を実施しようと、ボランティア団体を結成しました。戦争により、教育を受ける機会を失ったシリア人の子ども達の発達する権利を保護し実現するため、トルコのシリアとの国境県にてテントによるノン・フォーマル教室の開校と運営を開始しました。2011 年に勃発した戦争後、就学機会を一切失っていたシリア難民の子ども 80 人を対象に、母国語であるアラビア語や算数等のクラスやレクリエーション活動を実施しています。2016 年 8 月にはトルコにて NGO として登録され、2017 年 3 月には日本にて特定非営利活動法人として法人化されました。未だ小さなボランティア団体ですが、学習支援に合わせて、シリア難民の子ども達の発達を促進するため、栄養改善を考慮した食糧や衛生品、おもちゃなどの配布も実施しています。

2. 社会に伝えたい成果や課題（600 文字程度で簡潔にご記入ください）

難民支援の現場では、複数の大手 NGO や国連機関が大規模な人道支援を実施しており、特にシリア難民教最大のホスト国であるトルコでは、政府主導のシステム化された支援が中心となっています。300 万人以上のシリア人が避難生活を送るトルコでは、政府により一括された事業でなければ、コントロールしきれない側面はあります。しかし、支援を受ける裨益者登録の複雑さや遠隔地への情報の届きにくさ、アクセスの困難さ等から、未だ支援から取りこぼされている家族も多く存在します。これら脆弱性の高い条件で滞在している人々こそ、最も支援を必要としており、NGO こそが現場に赴き活動を届ける立場であるといえます。

当団体はボランティアから成る小さな団体ですが、これまでいかなる教育支援／子ども保護支援も行き届いていない地域で、1 年間子ども達の学ぶ権利を実現することができました。畑に囲まれ、テントや手造りの土壁の住居が点在する小さな村にて、家庭と他のシリア人家庭や、保護者とともに働く周囲の畑しか生活環境がない子ども達は、当初無表情でコミュニケーションもままならない状態でした。多くの子どもが社会参加の機会を失い、発達の遅れがみられましたが、1 年間の活動を通じ、読み書き・計算能力の向上だけでなく、子ども達の向社会的な行動や子どもらしい活発さを促進することができました。政治的に不安定な状況において、常に変化する情勢にあわせて柔軟な活動を実施する必要がありますが、限られたキャパシティのなかで最大限の効果を生みだせるよう、今後も尽力していきます。

以上